

# 令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証 学校の概要

大阪市立長原小	学校	児童数	24
---------	----	-----	----

## 平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	14.75	20.08	29.38	34.85	43.15	9.95	133.25	21.58	46.64
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.76	51.54
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
女子	14.43	11.63	27.75	30.50	31.38	9.67	124.38	12.38	43.83
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97

## 結果の概要

体力テスト合計点は、男子46.6点、女子43.8点であり、全国平均（男子53.0、女子54.0点）および大阪市平均（男子51.5点、女子52.6点）を下回った。特に女子の低さが顕著であり、基礎的体力の向上が急務である。種目別にみると、男女とも長座体前屈・立ち幅跳び・反復横跳びの得点が低く、柔軟性・跳躍力・敏捷性の3領域に課題が集中している。

運動への好意度は、男子76.9%、女子62.5%が「好き」と回答した。男女とも全国平均を上回っており、運動意欲は高い。1週間の総運動時間では、男子の「420分以上」が45.4%で全国よりやや低く、女子は25%で全国並みであった。しかし、女子は「0分」「1～59分」の層が多く、日常的な運動機会の不足がうかがえる。

体育の授業については、男子100%、女子87.5%が「楽しい・やや楽しい」と回答しており、授業自体の楽しさは確保されている。特に「できなかったことができるようになったとき」に楽しさを感じる児童が多く、成功体験が学習意欲の源となっている。

## これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

学校質問紙調査からは、教育目標に基づく組織的な授業改善や、データに基づくPDCAサイクルが機能していることが確認できる。ICT活用については、一部の学年で動画撮影や動きの比較が行われているが、全学年での活用には至っていない。動きの可視化は技能向上に効果が高く、今後の重点化が望まれる。

以上の結果から、次の点を重点課題として整理する。

### ・女子の基礎体力向上を最優先課題とすること

特に体幹・柔軟性・跳躍力の向上を図る系統的な単元構成が必要である。

### ・男女共通の課題である柔軟性・跳躍力・敏捷性の強化

日常的な柔軟運動、跳躍系サーキット、敏捷性トレーニングの導入が効果的である。

### ・運動習慣の定着

休み時間や長原タイムを活用しての運動機会の確保するとともに、家庭への働きかけを強化する。

### ・成功体験を生む授業デザインの推進

個別最適な課題設定や段階的な技能習得を意識し、児童が「わかった！できた！」を実感できる授業づくりを進める。

### ・ICT活用の全学年への拡大

動きの可視化を通して学習の振り返りを深め、技能向上につなげる。

### ・家庭との連携強化

調査結果の見える化とともに、家庭で取り組める運動の提案を行い、生活習慣改善を支援する。